

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400053
法人名	株式会社キタイセ
事業所名	グループホームあおい
所在地	三重県いなべ市大安町大井田2836
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 22 日
評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2491400053-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまであおいは行事に力を入れてきました。コロナ禍で規模は縮小しても季節の行事は外せません。秋祭りでは社長自ら鉄板で焼いた焼肉と焼きそばを二階に運びおいしくいただきました。そしてグループホームの中にレトロ喫茶を出現させました。まるで本当の喫茶店に行ったように音楽が流れコーヒーの香りが漂う癒しの空間の中会話も弾みました。また、最近では色々な作業ができない利用者さんも増えてきましたが、壁面飾りの制作物や個別の手芸など、できる限り皆さんに携わっていただけるように工夫しています。12月には個別のクリスマスリースを制作しそれぞれのお部屋の入口に飾り、残りの松ぼっくりでお正月飾りも出来上がりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍においても、広い敷地内に造成したミニ庭園のベンチで外気浴や日向ぼっこ、喫茶・食事会、柿やイチジク、柚子などの果樹や花梅花皮、枝垂れ桜・紫陽花など季節ごとに綺麗な花を見ながらの散歩、秋には果実の収穫を楽しむ、日常的に外出支援をしている。認知症介護の経験豊富な管理者・社員の下、日々の暮らしは事業所や社員の都合で支援するのではなく、一人ひとりの自由と意思を尊重し、自立を助け、家庭的な雰囲気の中、職員は常に笑顔で思いやりの介護が実践され、利用者の表情は明るくて安心して過ごしている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なかなか理念を理解しての実践は難しい	基本理念は介護の原点と考え、日々の暮らしは、家庭的で利用者のペースで暮らしができるよう常に笑顔で支援している。	基本理念はよく理解されており、今後は基本理念と合わせ、更に具体的な行動指針や地域密着の意義を踏まえ、日常的に実践できるわかりやすい目標を社員皆で考え実践されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し広報を配布してもらっている。以前は年2回の地域の掃除に参加していたが最近ではほとんどできていない	事業所は民家と離れていることもあり、現状は自治会から広報誌を配布してもらっている以外の交流はできていない。自治会長が運営推進委員であることから、管理者が毎月発行の『あおい新聞』を届ける際に情報交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほとんどできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで会議ができないまま3年過ぎましたが、毎月のあおい新聞だけはお届けしてその時にお話をしてくるよう努めている	コロナ禍の要因で、運営推進会議は開催できていない。委員には毎月発行の『あおい新聞』を届けているが、現状は意見や要望はない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所にも毎月発行の新聞をお届けし、わからないことは聞いたりしている	事務連絡・情報交換は電話やメールで行っている。管理者が介護保険の手続き、毎月発行の『あおい新聞』などを持ち込む際に、市の担当者と面談し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の委員会を作り、研修を行い、日ごろから話し合っって身体拘束をしないケアに務めている。	3カ月毎に身体拘束等適正化対策委員会を開催し、記録している。委員会で話し合われた事項については社員研修会で報告し、スピーチロック・ヒヤリハット事例など話し合い、日常の会話も拘束がないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とともに虐待はあってはならないことを日ごろから話し合っって防止に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なときには活用できる支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得できない部分や疑問点が無いか尋ねて、しっかり理解をしていただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お会いした時にお話をして要望を聞くようにしているが、現在コロナ禍のため、電話やLINEを使っている	家族等室内での面会は自粛しているが、予約のうえ玄関先のミニ庭園で直接面会を始めている。毎月発行の『あおい新聞』に、日々の暮らしの様子を記した手紙を添え届けている。家族とは電話やLINEで話しているが、現状は運営に活かす意見や要望はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の管理者会議で、管理者は職員の意見や提案・要望をまとめ代表に伝えている。普段の些細なことでも統括管理者に相談できるシステムがある	管理者と社員との垣根はなく、日常の介護の場や日々の申し送り時に気軽に言える環境にある。レクリエーションのアイデアや、古くなった物品(電子レンジや掃除機等)の買い換えが社員の声から実現し、介護の場で活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が年に二回の評価を行って代表者に伝え、代表は職員の努力や勤務状況の把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主性を重んじている。やる気のある職員には研修費用など支給される		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内の別事業所とは、相互の行事の手伝いや、時として勤務に行くことで交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの自宅訪問をして、その人がどんな生活をしてきたかをまず知ったうえで、本人の安心を確保する関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネさんにお話を聞いたり、家族さんとは連絡を密にとるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	きちんとお話をし、本当におおいで暮らしていくのが一番なのかを見極めるようにしている。先日も話して行く中、看取りまでしてもらいたいという意向をお聞きし、ほかの施設をご紹介した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係はなかなか難しい。どうしても介護する立場として職務を行っている職員が多い。また利用者もしてもらう側と思っている方が多い。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は大切に、ともに本人を支えていくように連絡はできるだけしっかり行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はなかなか難しい	コロナ禍であり、従来の事業所での面会や地域に出向いての人・場との馴染みの継続支援が出来なかった。家族や友達とはスマホ(ライン)で馴染みの継続をしている。事業所の車でドライブを兼ね馴染みの場所へ花見にも出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	しっかり把握して、仲良く生活できるように座席なども考えて決めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡などあれば必要に応じて相談や支援に務めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様から状況や希望を聞いたり、本人の話を聞いたりしながら思いを把握している	利用者の思いや意向は、入浴時や日々介護の場での会話や表情・仕草から把握し、把握したことは日々の申し送り時に言い伝えし、個々の介護記録に記載することで、全社員が共有のうえ、利用者の思いや意向に沿うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話を聞いたり、ケアマネさんからの情報をいただいたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員をはじめ関わる職員は情報を共有しながら、一人一人の現状を把握するように務めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんの状況の変化に沿ってケアカンファレンスで話し合っ決めて決めるようにした。	管理者が常に介護の場にいることから、モニタリングは管理者自ら社員の意見を聞き必要な都度作成している。ケア会議兼カンファレンスで社員の意見を聞き、家族・医師の意見を反映し、状態に変化があればその都度、定期的には1年毎に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践したことや工夫などを記録することの重要性は訴えている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なかなか既存のサービスから抜け出せない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、家族様と話し合って希望があれば今までの主治医で続けていけるようにしているが、現在は全員グループホームの主治医がかかりつけ医である	全ての利用者は、事業所の協力医をかかりつけ医としている。月1回協力医の訪問診療に看護師と薬剤師が同行していることから、処方箋の説明と薬は全て事業所に届けてくれる。専門医の受診は原則家族が同行している。歯科医の訪問診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	あおいには看護婦はいないが、何かあったときにはデイサービスの看護職に相談できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんの入院時は医療連携室と連絡を密にとるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した時の方針は入所時に話し合って受け入れ先があることもお話ししている。看取りはできないことも伝えている	入居開始時に重度化や終末期の対応について、現時点事業所での支援が困難であると説明し入居してもらっている。重度化の状態になれば家族と話し合い、受け入れ先の病院・特養・母体法人の有料老人ホーム等を紹介するよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時のマニュアルと連絡方法など書かれたファイルを作って初期対応に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の備蓄を備えている。いざとなったら本社より救助が来る	市主催の防災研修に参加、社員間で防災についての話し合いが行われているが、本年度は事業所独自の防災訓練が実施されていない。	突然に発生する大地震等の災害の際に備え、社員個々の役割を明確にし、社員の防災意識を高めるため、災害時の初期動作が出来るよう、机上訓練を含め定期的に避難訓練等を実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り気を付け、気が付いた時には職員同士声をかけるようにしている	利用者も社員も全て女性であるが、プライバシーを害しないように、居室への出入りや着替え、トイレのドアやカーテンの閉め忘れがないよう常に心掛けている。気になる言葉遣いや言葉掛けがあれば、その都度管理者から社員に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか思いを表さない利用者に対してはこちらから声をかけて、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を食べたくない利用者さんなどは、強制しないで声をかけて食べなくなったら食べてもらうようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師さんに来てもらってカットをしてもらい、毛染めの希望者は職員が染めている。また、希望があればマニキュアやメイクも。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在台所仕事はなかなか難しい。少しはできる利用者さんに手伝ってもらっている程度。洗濯干しやたたむことは8名中6名にしている。	献立と食材は業者に委託し、栄養バランスの取れた調理済みの冷凍食品が提供されている。社員が利用者好みの献立にアレンジのうえ調理し、見た目も美味しく盛り付けされている。月2回と夕食、朝食は事業所独自の手作り料理が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の食べる量や食事形態など細かく配慮している。好きなものや嫌いなものも把握して気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できない利用者さんは職員が口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り職員の都合でおむつにしてみられないように、できる限りトイレでの排泄を続けられるよう支援している	利用者の多くは昼間は布パンツを使用している。利用者の排泄パターンとその日の体調や表情から尿意を察知し、一部介助・全介助とも全てトイレで排泄出来ている。社員の努力で一人でも多くの利用者が紙パンツから布パンツに移行できるように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来たら便秘薬に頼らないように、牛乳やヤクルトなど乳製品を飲んでもらっている。生野菜は難しい。運動も難しく飲食物での調整も難しい利用者さんには、下剤を主治医より処方してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を楽しんだり、入りたくない方は強制しない。曜日は一日おきに決まっているが入りたい方には対応する。	利用者の体調に合わせて、概ね週3回午前中にゆっくり・ゆっつりの入浴とし、社員とのコミュニケーションの機会ととらえ利用者の意向や思いを聞きながら会話し、利用者のペースで入浴を楽しんでいる。日曜日は足浴がある。浴室に水虫予防マットが置かれている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休んでもらっている。生活のリズムがほぼ決まっており、最近では昼寝をする方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局さんといつでも気軽に相談できるようになっており、電話をして利用者さんの状態を伝えたり、症状の変化に合わせて主治医のアドバイスももらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人の好みを知って、新しい方にはどんなことができるかを把握して行くようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は最低限度、施設だけで季節の花見は行くようにしている	毎日玄関先のゴミ箱へのゴミ出し、天気が良ければミニ庭園のベンチで外気浴や日向ぼっこ、時々喫茶や食事を楽しんでいる。お正月には氏神への初詣、ドライブを兼ね季節ごとの花見に出かける等の外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持しない決まりになっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なかなか会えないので電話やビデオ通話などを行っているが、手紙の支援はすすめても書きたがらない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居心地の良い空間を作る努力をしている	玄関や2階への踊り場、居間兼食堂には利用者が作った多くの貼り絵が飾られ季節を感じるとともに心が和む雰囲気である。居間兼食堂は広く天井は高く、南の窓越しからの採光で部屋全体が明るく開放的であることから、利用者は、日中殆ど居間兼食堂に居て、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ってテレビを見る人や、テーブル席で話し込む人もあり。居室にお友達を招いたり、一緒にお茶を飲んだりできるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ居心地の良い部屋を作るようにしている	事業所からは、各居室ともエアコン・ベッド・大きなクローゼットが備えられている。居室には何でも持ち込みが可能であるが、日中は大半居間兼食堂で過ごされることから、日々使用する家電や小物、夫の位牌等が持ち込まれ、お好みの部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる方には極力自立した生活をしていただけるようにしている。掃除も昼食が終わった後クイックル掃除をしてもらっている		